

# 学校関係者評価報告書

学校法人 麻生塾  
麻生情報ビジネス専門学校 北九州校

## 目次

I. 学校関係者評価の概要と実施状況	- 3 -
1. 学校関係者評価の目的と基本方針	- 3 -
2. 学校関係者評価委員出席者名簿	- 3 -
3. 学校関係者評価委員会の実施状況	- 4 -
4. 学校関係者評価委員会の実施方法	- 4 -
5. 学校関係者評価の評価方法	- 4 -
II. 学校関係者評価委員会報告	- 5 -
1. 重点項目について	- 5 -
2. 基準項目について	- 6 -

## I. 学校関係者評価の概要と実施状況

### 1. 学校関係者評価の目的と基本方針

#### 1)目的

①卒業生、関係業界、職能団体・専門分野の関係団体、高等学校、保護者等・地域住民などの学校関係者が、麻生情報ビジネス専門学校北九州校の自己点検・評価結果を評価することで、自己評価結果の客観性・透明性を高める。

②学校関係者から、学校運営・教育活動の現状における課題について助言を得ることで、学校運営の継続的な改善を図る。

#### 2)基本方針

学校関係者評価は、自己点検・評価報告書を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。

### 2. 学校関係者評価委員出席者名簿

区分	氏名	所属(役職)	出欠
高等学校	谷川 陽一	福岡県立小倉商業高等学校 校長	欠席
保護者等	五十嵐 比奈子	ゲームクリエイタ科 3年生の保護者等	出席
地域住民	佐伯 京子	地域住民代表	出席
卒業生	川端 君佳	オフィスビジネス科令和2年度卒業生	出席
業界関係者	伊藤 洋平	株式会社パソナ YBS 小倉支店 特定法人営業課長	出席
業界関係者	上田 浩二	株式会社サークル・オブ・フレンズ 代表取締役	欠席
業界関係者	河上 和弘	株式会社ジーン 人事部 部長	欠席
業界関係者	木ノ下 五郎	社会医療法人北九州病院 北九州総合病院 事務部 次長	出席
業界関係者	三宅 康夫	株式会社ラック 新規事業開発部 地域創生事業室 九州電力事業開発グループマネージャー	出席
業界関係者	宮原 寿光	株式会社 RAID 代表取締役社長	出席
業界関係者	森田 良一	バリエントソフト株式会社 代表取締役	出席

※区分別、五十音順、敬称略

### 3. 学校関係者評価委員会の実施状況

実施日時:2024年6月12日(水)15:30 ~ 17:00

場 所:麻生塾北九州キャンパス 小倉校舎 6階 602教室

### 4. 学校関係者評価委員会の実施方法

2023年度の活動実績に対し学校関係者評価委員と学校とで十分な意見交換を行い、学校の状況について共通理解を深めた。

自己点検・評価報告書に基づき、基準項目の自己評価結果、課題及び改善策について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

- (1)自己評価結果の内容が適切かどうか
- (2)今後の解決方向が適切かどうか
- (3)学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか
- (4)その他、学校の運営に関する助言

### 5. 学校関係者評価の評価方法

基準項目の小項目ごとに、自己点検・評価と同じく下記の評価基準によって評価し、基準ごとに自己評価結果が適正であるかどうかを評価した。

自己評価結果に対する学校関係者評価の結果は基準項目ごとに表記している。

また、意見についてもとりまとめて記載している。

#### 評価基準

- S:適切
- A:ほぼ適切
- B:やや不適切
- C:不適切

## Ⅱ. 学校関係者評価委員会報告

### 1. 重点項目について

#### 【重点項目】

- ① 情報共有の進化
- ② 学校行事・学科行事の見直しと授業形態の最適化

#### 【取組み状況及び総括(成果と課題)】

- ① 円滑な情報共有ができるようにするため、会議体を整備し運営している。会議体として、管理職会議、リーダー会議、全体会議に加え、学科別に学科会議を定期的実施し議事録を管理。明確な役割分担によって、組織内の情報共有と教職員の協力体制が整うようにしている。それにより、教職員全体が法人全体の状況を把握することが可能となっており、課題点に対する認識の統一等に繋がっている。一方で、学科会議の議事録に関しては少人数で構成される学科を中心に口頭での共有にとどまり、記録が十分に残されていないケースもあり、記録として残していく仕組みの整備が今後の課題となっている。
- ② 2020年～2022年度の3年間は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、学校行事、学科行事の実施規模を大幅に縮小して来たが、2023年度は行事目的に沿った形式で実施することとした。特に、学生の交流イベント(学園祭)や、学習発表行事(制作展、卒業研究発表)を含め、指導科目によっては、「ハイブリッド型授業(対面授業/オンライン授業)」を実施し、学生にとってより効果的な授業形態を取り入れている。学科・学校行事の実施により、学校生活における学生同士のコミュニケーションの機会が増し、各種行事にも積極的に参加をする姿勢が見られた。また、授業においては対面授業を基本としているが、一部制作発表等においてはオンライン環境を利用することで、クラスを横断した授業の実施が可能になったことなど、目的にあわせた形態で実施することが出来た。

オンラインでの授業は、授業内容の録画等が容易なことから振り返り学習を促しやすいといった利点もあり、2023年度の対面/オンラインの各授業形態の効果を検証した上で、授業計画に反映させる取り組みを進めていく。

#### 【委員からのご意見】

- ・記録については、口頭で共有ののち社内メール等で簡単なまとめを作成するなどして書面で残すことを徹底してほしい。
- ・ハイブリッド型授業が学生による選択制であるのであれば、クラスの空気感によっては、対面を希望する生徒は選択しにくいのではないかな。

## 2. 基準項目について

### 基準 1 教育理念、目的、育成人材像

学校関係者評価結果: 適正

法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を定め、学校構成員に周知を図り、社会に公表しているか。

#### 【取り組み状況】

法人の理念を踏まえ、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像についてはきちんと明文化され、学校グループのホームページへ掲載されたものを通じ、各教職員から学生・保護者等・企業へ周知を図っている。また、学生便覧に掲載し全学生に配布しており、入学直後のオリエンテーションでも、法人の理念・学校教育理念・教育目的・育成人材像について周知させることができている。

GCB教育(グローバルシティズン・ベーシック、麻生塾独自のキャリア教育プログラム)によって、麻生塾生としてふさわしい態度や考え方の教育を行っている。

#### 【課題及びその改善方策】

特になし。

#### 【委員の方からのご意見】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
1-1-1	「学校の教育理念」を定め、学校構成員(すべての教員、職員、学生)及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S	S
1-1-2	各学科の教育目標(育成人材像)を定め、学校構成員(すべての教員、職員、学生)及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S	S

基準 2 学校運営

学校関係者評価結果: 適正

- 2-1:学校の教育理念に沿った運営方針を定めているか
- 2-2:事業計画を作成し、執行しているか。
- 2-3:運営組織や意思決定機関は効率的なものになっているか。
- 2-4:人事・給与に関する制度を確立しているか。
- 2-5:情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

【取り組み状況】

- 2-1  
学校の教育理念に沿った運営方針を定め、規定通りに運営することができおり、説明用の資料を作成したうえで、年初のキックオフミーティングにて全教職員に対して周知・共有を行っている。
- 2-2  
学校の運営方針に沿って事業計画を作成し、年初のキックオフミーティングにて全教職員に周知を行っており、執行状況についても、各種会議において情報共有と進捗確認ができています。また、資料については、学校のサーバーに保管し、常に教職員が確認することが可能である。
- 2-3  
法人としての運営組織や意思決定機関は明文化されており、有効に機能しています。学校運営については学校組織図に基づき各種会議の整備・運営を行っています。各種会議体により定期的な情報共有を行い、学校・学科の方針等を認知し対応できる体制を整えています。校務分掌については担当者の複数人化を推進し、教職員の業務の幅を広げ、属人化の解消を目指しています。学校業務を支援するための事務組織も円滑に機能しています。研修参加の取組等を通して、事務職員の意欲や資質・能力の向上を図っています。
- 2-4  
就業規則をはじめとした人事諸規程および労使協定書は法令を遵守し整備されており、全教職員が閲覧可能である。教職員の採用活動については、年間採用計画をもとに、募集を自社ホームページや外部媒体に適宜掲載し欠員・充足状況等をふまえ更新しており、選考過程の経過や決裁等を記録保管し、適正に活動をすすめている。
- 2-5  
学生の学籍や成績等の必要な情報については、麻生塾システムにて管理されており、教職員すべてが情報の共有化を行っている。新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行に伴い対面での授業が主となっているが、オンラインやハイブリット型授業(対面授業/オンライン授業)など Microsoft Teams(製品名)などの情報共有ツールを用いることで、授業内容を踏まえたより効果的な授業の実施を行うことで、教育の質の向上を図ることができている。

【課題及びその改善方策】

2-3

課題としては特にはないが、様々な情報の記録・保存・共有をしやすいするために、管理シートやチャット等を有効に活用していく。

その他の項目は特になし。

【委員の方からのご意見】

- ・議事録を自動で作成してくれるツールを活用するなど、業務の効率化を検討してほしい。
- ・重点項目でもあるので、全ての事象は書面に残すことが必要ではないか。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
2-1-1	学校の教育理念に沿った運営方針を策定しているか。また、運営方針を教職員に周知しているか。	S	S
2-2-1	運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか。	S	S
2-2-2	事業計画は適正に執行されているか。	S	S
2-3-1	法人の運営組織や意思決定機能は規程等において明確化されているか。また有効に機能しているか。	S	S
2-3-2	学校あるいは部門の運営組織や意思決定機能は明確化されているか。また有効に機能しているか。	S	S
2-3-3	運営会議(教職員会議・教員会議等)が定期的開催されているか。	S	S
2-3-4	学校業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。	S	S
2-3-5	事務職員の意欲や資質・能力の向上を図るための方策を講じているか。	S	S
2-4-1	人事に関する制度を整備しているか。	S	S
2-4-2	給与に関する制度を整備しているか。	S	S
2-4-3	昇給・昇格制度を整備しているか。	S	S
2-4-4	教職員の募集・採用は適切に行われているか。	S	S
2-5-1	情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか。	S	S



基準 3 教育活動

学校関係者評価結果: 適正

- 3-1:教育理念、教育目標(育成人材像)に沿った教育課程を編成・実施しているか。
- 3-2:教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程・教育内容は適切に行なっているか。
- 3-3:教育の評価を適切に行っているか。
- 3-4:成績評価と単位認定を適切に行っているか。
- 3-5:教育活動を確実に実践するために、教育体制の整備を適切に図っているか。また教員の能力開発のための資質向上の取り組みを行っているか。

【取り組み状況】

3-1  
教育理念、教育目標に基づき、教育課程を編成している。ディプロマ・ポリシーは学生便覧に掲載して教職員と学生に周知しており、各学科のカリキュラム・ポリシーや授業の内容を示すシラバスもホームページで公開している。  
年2回の教育課程編成委員会にてカリキュラムの検討を行い、教育課程を定期的に見直し、向上を図っている。

3-2  
学校教育法に定められた授業時間数を満たすカリキュラムを体系的に編成している。教育課程編成委員会などで企業等からいただいた意見を基に、教育目標・業界ニーズにあわせた授業実施のためにカリキュラムの一部を見直し、より充実した授業内容へと改善に努めている。企業等と連携した実習では、実施要綱に基づき学生に事前・事後の指導を行い、担当者からの評価内容や担当者からのヒアリングに課題の抽出を行い、2024年度の実習や就職活動に活かしている。キャリア教育については、就職実務やGCB教育(グローバルシティズン・ベーシック、麻生塾独自のキャリア教育プログラム)等の授業により、社会的・職業的な自立に必要な基盤となる能力や態度について習得を図っている。

3-3  
在校生に「授業アンケート」を実施することで、授業評価を行い、その結果に基づいて責任者から各教員にフィードバックを行っている。授業科目の到達目標に対して授業方法が適切であるかについては、検定結果等により検討し、理解不足の分野や新規出題分野について授業内容や方法の再検討・改善を行った。

3-4  
規程として定められた成績評価、単位認定、進級・卒業判定の基準については、学生便覧などを通じて明示し適切に評価を行っている。年度末には卒業判定会議、進級判定会議を実施し、卒業・進級判定をおこなっている。

3-5  
教員の組織配置については法令に則り、資格・要件を備えた教員を確保し、分野ごとに必要な教員体制を整備している。外部機関の実施する研修の利用や、学校法人麻生塾教育推進グループが主催する研修の機会を積極的に活用し、教員の専門性や指導力等の維持、資質・能力向上を図り、その内容について報告しており、その報告書の内容をもって、今後の改善計画や担当業務を勘案している。

【課題及びその改善方策】

3-2

採用活動の早期化に伴って、キャリア教育の実施時期についても適切な実施時期の再検討を行う。内容についても、めまぐるしく変化する各業界の状況を反映したものに継続的にアップデートしていく必要があるため、時代のニーズに即した、より実践的・専門的な教育課程を編成していく。

3-3

学生の授業満足度や学習理解度の把握時期が期末のみとなっており、学生の授業科目の目標に対する到達度の把握について適切なタイミングで実施が出来ていない。より適時性を持って学生の理解度を把握する指標として授業ミニアンケートの実施や單元ごとの評価を行う仕組みの整備を進める。

講師への期末授業アンケート結果に対するフィードバックは行われているが、改善のための具体的なアドバイスやサポートなどは不足している。上述の適時性を持った授業ミニアンケートの実施とあわせ、よりよい授業の運営のための授業見学の実施など授業内容改善の取り組みをサポートする制度を整えていく。

3-5

常勤講師と非常勤講師との情報の共有が不十分な面が見受けられる。オンラインを含めた講師会を実施し、確実な情報共有を行う。参加が難しい講師についても確実な情報伝達ができるように、共有事項の資料を作成し共有する。

研修に参加し、資質・能力を向上させる取り組みは行われているものの、報告書の作成が不十分であり、成果の検証に至っていない。必要に応じて勉強会等、共有する機会を設けることで、取り組み内容の共有を図る。

その他の項目は特になし。

【委員の方からのご意見】

・採用、インターンシップの早期化は年々加速している現況に対して、キャリア教育の実施時期の再検討が必要とのことだがどのように実施していく予定でしょうか？

⇒今までは後期からキャリア教育を行っていたが、入学後すぐに実施していくことも検討している。特にシステム系は動きが早いため、2024年度のカリキュラム変更も見越しており、危機感を感じている。また Microsoft Teams にて就職イベントの紹介や、希望学生への面談を実施している。

・入学前には時間的な余裕があることもあり、現在の就職活動の動向を共有したうえで、保護者等と協力しながら、入学前からキャリア形成について考える機会を作ってはどうか？

・キャリア教育の育成、キャリア発達の客観的判断材料の検討をしてほしい。

・企業との連携において、業界の偏りはないのでしょうか？また、成果の検証を行って欲しい。

・オンライン授業を実施する場合は、シラバスにはオンラインで実施する旨、記載はされているのか？登校するのかオンラインの日なのかが分からないので、保護者等が分かるようにしてもよいのではないかと。

⇒シラバスには記載するような項目がないが、開講状況に基本的には対面ということで公開をしている。但し、作品製作期間や Web 面接訓練等の為にオンライン授業の日を設けることがある。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
3-1-1	教育目標(育成人材像)に基づきディプロマ・ポリシーを明示し、また学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S	S
3-1-2	教育目標(育成人材像)に基づき教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)を明示し、また学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S	S
3-2-1	教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	S	S
3-2-2	業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容(学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保等)が提供されているか。	S	S
3-2-3	専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行っているか。	S	S
3-2-4	授業科目の目標を達成するための授業内容や授業方法になっているか。	S	S
3-2-5	授業及び実習に関するシラバスは作成しているか。	S	S
3-2-6	シラバスに基づいてコマシラバスを作成しているか。	S	S
3-2-7	授業はシラバス及びコマシラバスに基づいて実施しているか。	S	S
3-2-8	専攻分野における実践的な職業教育(インターンシップ、企業等と連携した実習・演習等)を教育課程に体系的に位置づけ、実施しているか。	S	S
3-2-9	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか。	A	A
3-3-1	授業評価体制を整備しているか。	S	S
3-3-2	学生によるアンケート等で定期的に授業評価を実施しているか。	A	A
3-3-3	授業科目の目標に照らし、教育内容・授業方法が適切であるか確認しているか。	S	S
3-3-4	授業評価の結果を教員にフィードバックしているか。	A	A
3-3-5	授業評価の結果をもとに、授業内容・授業方法の改善を図るための取り組みを行っているか。	A	A
3-4-1	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	S	S
3-4-2	学生や保護者等に、成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準、進級要件、卒業要件を適切に明示しているか。	S	S

3-4-3	各規程に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか。	S	S
3-5-1	法令に則り、学校の教育理念・教育目標の達成に必要な教員を確保しているか。	S	S
3-5-2	教員の組織体制を整備しているか。	A	A
3-5-3	教員に必要な知識・技能を身に付け、資質・能力の向上を図るための取り組みを行っているか。	A	A
3-5-4	教員に対して、専攻分野に係る関連分野の企業等と連携して、実務に関する研修・研究に組織的・計画的に取り組んでいるか。	S	S
3-5-5	教員に対して、企業等と連携して、指導力・教授力を習得、向上するための取り組みを行っているか。	S	S

## 基準 4 学修成果

学校関係者評価結果：適正

4-1:学科ごとに学生の学修成果を中心とした目的・目標を設定して教育活動を行い、多様な視点から成果の達成状況を把握し、改善に活用しているか。

4-2:卒業生の社会的な活躍および評価を把握しているか。

### 【取り組み状況】

#### 4-1

学科ごとに国家資格試験や各種検定、コンテストの入選目標数を年度当初に設定し、その結果をもとに、次年度のカリキュラムや授業内容の改善に努めている。就職年次の担任と就職担当者が定期的に就職部会を行い、学生の就職状況や求人情報について情報共有を行ったうえで、支援方法について検討を行っている。退学率の軽減の取り組みとして、担任との個人ガイダンスを年に数回行うとともに、必要に応じて保護者等と情報を共有している。

#### 4-2

卒業生の状況については、就職担当職員が企業から聞き取りを行い、就職部会等にて教員に共有をおこなっている。また、卒業生から元担任への近況報告なども共有を行っている。卒業生の状況については、離職率の調査を行っている。

### 【課題及びその改善方策】

#### 4-1

資格取得等に関するカリキュラムマップの作成については、2022年度より3か年計画で作成中であるが、受験予定の検定の実施時期の変更等に対応したものになっておらず、引き続き更新していく。

#### 4-2

企業の求める人材像の把握が不足しているため、採用した学生の貢献度や今後、必要とされる資質・技術・資格について企業側にアンケートを実施し、その意見を基に求められる人材像を教務と共有していく。

### 【委員の方からのご意見】

・学生の成果の達成状況の把握に関して、学生の方は成績が分かるが、どの分野が強いのかといったものを調べるツールはあるのか？

⇒資格の合格実績で把握することが多いが、知識ベースでの評価になってしまう。実際のプログラミング能力などは、教員が個々で対応する形となっているのが現状である。

・卒業後の動向調査は、いつ頃実施しているのか？

⇒在籍把握調査は入社後1～3年は11月頃に実施し、返信が無い場合は電話による確認を実施している。卒業生の評価に関しては今まで実施できていなかったが、2022年度から福岡校と協力してアンケートを実施している。

・卒業生の情報の収集方法、時期、回収率や有効性などについて、高い効果の発揮を期待します。

・ホームページに卒業生用の各種証明書発行手続きについて案内が掲示されているが、今の若い世代は電話が苦手なで気軽に連絡することができないのではないかと。また、担任の連絡先を知らない卒業生もいる。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
4-1-1	就職率・就職者の割合の向上の取組みを行っているか。また結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか。	S	S
4-1-2	資格取得率、公務員合格率及びコンテスト・コンペ入選数の向上の取組みを行っているか。また結果を分析し、教育活動及び学生支援の改善を図っているか。	S	S
4-1-3	資格取得等に関する指導体制及びカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	A	A
4-1-4	退学率の低減が図られているか。また結果を分析し、退学率を低減させる取組みを行っているか。	S	S
4-2-1	卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への効果を把握しているか。また、それを踏まえ教育活動等の改善を図っているか。	A	A
4-2-2	卒業生の卒業後の動向や就業状況を調査・把握しているか。	A	A

基準 5 学生支援

学校関係者評価結果：適正

学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか。

【取り組み状況】

就職支援については、面接指導や提出書類の確認等、担任教員と事務局で連携して行っている。また、学生の学校生活や就職活動等における相談対応としては、担任の他にスクールカウンセラーや学科内の教員もあたっており、保護者等とも連携しながら、複数で対応する体制を整えている。特待生制度、学費分納納入制度および高等教育の修学支援制度などの経済的支援については、公平に情報提供し適切に運用している。健康診断を実施し、学生の健康管理を管理するとともに、留意すべき点のある学生については教職員内で情報共有を行っている。保護者等に対しては、学生状況(出席不良、成績不良、体調等)に応じて連絡・説明を行い、コミュニケーションを図っている。また、卒業生に対しては、校友会を通して就職支援などを行っている。入学前教育として、学科の特性に応じた課題を課し、専門分野の事前学習を始める体制を整えている。また、学力不足を補うため、リメディアル教育(「学びラボ」)で個別に基礎学力の補填ができる支援を行っている。

【課題及びその改善方策】

2023年度は、課外活動の再開について学内で周知したのみに終わった。時間割の調整を行い、学科を超えて全学生が希望する各種課外講座等に参加できるプラスα制度を含め、課外活動に学生が主体的に参加できる体制を整えていく。

【委員の方からのご意見】

- ・課外活動への積極的な参加を期待します。
- ・保護者等が出席状況を把握できるシステムを導入している学校もあるようだがこれについてはどのように考えているか？  
⇒担任から保護者等への欠席理由の確認等を行うことがあるが、負担も多いと感じている。今後、このようなシステムの導入も検討していく必要がある。ただ、担任と保護者等が直接コミュニケーションをとることで事態が好転するようなこともあっている。

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
5-1-1	学生の就職・進路支援を適切に行っているか。	S	S
5-1-2	学生相談に関する体制を整備しているか。	S	S
5-1-3	学生の経済的側面に対する支援制度を整備し、適切に運営しているか。	S	S
5-1-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	S	S

5-1-5	学生の生活環境への支援を行っているか。	S	S
5-1-6	保護者等との連携を適切に行っているか。	S	S
5-1-7	卒業生への支援体制を整備しているか。	S	S
5-1-8	社会人学生への支援体制を整備しているか。※	評価除外	評価除外
5-1-9	学生の課外活動に対する支援を適切に行っているか。	A	A
5-1-10	学生に対する修学支援体制を整備しているか。	S	S
5-1-11	入学前教育や学力不足を補う補習教育などの学習支援を行っているか。	S	S

※社会人学生とは、学生のうち、職に就いている者(給料、賃金、報酬、その他の経常的な収入を目的とする仕事に就いている者)をいう。



基準 6 教育環境

学校関係者評価結果: 適正

6-1:教育運営に支障を生じさせないように教育設備を整備しているか。

6-2:教育環境を適切に維持しているか。

【取り組み状況】

6-1

教育施設・設備については、設置基準を遵守し、定期的に動作確認などを行い適切に管理している。教育機材と備品については、備品管理台帳を整備し、数量不足や使用不備が発生しないように、状況に応じて交換や追加で購入している。また、図書コーナーに業界誌、就職活動参考図書等を配置し、教職員・学生が利用できる状態にしている。

6-2

学外実習やインターンシップにおける実施要綱・マニュアルなどが整備され、参加前には、説明会や実習前研修を行い、終了後は報告書の提出を求めて振り返りを行っている。

学校における安全管理体制として、危機管理マニュアルの整備を行い、避難場所・避難経路については教室内に掲示している。

学内の防災対策に関しては、火災・地震発生時を想定した避難訓練を教職員が実施している。感染拡大防止として、新型コロナウイルス感染症の 5 類感染症移行後も入館時の検温、手指消毒、換気の徹底、教室内の消毒を継続している。

【課題及びその改善方策】

6-1

課題はないが、今後も、機材・備品管理台帳を継続的に更新する。

その他の項目は特になし。

【委員の方からのご意見】

・校外実習とはどのようなものがあるのか？

⇒オフィスビジネス科医療事務専攻にて現場実習が行われている。医療事務の様々な分野において、学生が希望して興味のある分野の医療事務スタッフとして実習を行っている。

・学生を外部で実施されている〇〇フェアなどに連れて行って、地場企業の人と話す等の経験をさせるなども、就職活動が円滑に進むきっかけになるのではないかと？

⇒イベントの案内を適宜行っているが、学生の腰が重いこともあり、学校がサポートしていきたい。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
6-1-1	教育上の必要性に対応した施設・設備を整備し、維持・管理、安全・衛生を確保しているか。	S	S
6-1-2	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか。	S	S
6-1-3	図書室・図書コーナーがあり、図書館サービスは十分に機能しているか。	S	S
6-2-1	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	S	S
6-2-2	学校における安全管理体制の整備を行っているか。	S	S
6-2-3	定期的に防災訓練を実施しているか。	S	S

基準 7 学生募集

学校関係者評価結果: 適正

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

【取り組み状況】

アドミッション・ポリシーを募集要項、本校の公式ホームページにて公表し、適正に募集活動を行っている。選抜方法を募集要項に明記し、公平かつ適正に行っている。また、校納金等を定期的に検証し、適切に設定している。

【課題及びその改善方策】

課題は特になし。今後も引き続き、適正な募集活動のために、選抜方法や選抜基準等についても毎年見直しを図り、適正かつ公平な入学選抜となるように努めていく。

【委員の方からのご意見】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
7-1-1	入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を策定し、学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表しているか。	S	S
7-1-2	募集活動において、教育成果を含めた学校情報は正確に伝えているか。	S	S
7-1-3	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集を行っているか。	S	S
7-1-4	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか。	S	S
7-1-5	校納金(学生納付金)等は妥当なものとなっているか。	S	S

基準 8 財務

学校関係者評価結果: 適正

教育活動を安定的かつ継続的に進めるため、財務基盤が安定し、適正な財務管理、監査の実施及び情報の公開を行っているか。

【取り組み状況】

財務基盤は安定しており、貸借対照表や資金収支計算書にみる各種残高および基本金積み上げ額は、学生に必要なかつ快適な教育環境を提供できる十分な財務体質を備えている。

予算決算管理および昨年度対比による分析等の取り組みを継続する。その分析により重要な差異や変動を把握するとともに、対応策の検討・実施により、外部環境の変化等に耐え得る安定した財務基盤の維持を図る。

また、私立学校法及び寄付行為に基づき、監事による監査が適切に行われており、監査報告書を受領している。なお、ホームページにて、貸借対照表・収支計算書・財産目録・監査報告書を適切に公開している。

【課題及びその改善方策】

特になし。

【委員の方からのご意見】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
8-1-1	教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。	S	S
8-1-2	予算計画は有効かつ妥当なものとなっているか。また事業・予算計画に基づき適正に執行管理されているか。	S	S
8-1-3	私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか。	S	S
8-1-4	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか。	S	S

基準 9 法令遵守

学校関係者評価結果: 適正

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正に学校運営を行なっているか。

【取り組み状況】

専修学校設置基準、福岡県私立専修学校設置認可取扱基準を遵守した学内規程が規定されており、学校として遵守の体制を整え、教職員へ周知している。また、個人情報の保護、ハラスメント防止についての関係法令に基づき規程を定め、危機管理に関するマニュアル等を含めて、学校として遵守の体制を整え、教職員へ周知している。

【課題及びその改善方策】

特になし。

【委員の方からのご意見】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
9-1-1	法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	S	S
9-1-2	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか。	S	S
9-1-3	法令遵守違反等に対応する体制を整備しているか。また、法令遵守等に関する研修・教育を行っているか。	S	S

基準10 内部質保証

学校関係者評価結果: 適正

教育の質を保証する仕組みを構築し、教育内容等について自己評価を行い、課題解決に取り組んでいるか。また、教育情報を積極的に公開しているか。

【取り組み状況】

教職員全員で関連分野の自己点検・評価を行い、結果に基づき業務等の改革・改善を行うことを基本方針とし、本校の教育の質保証・向上への取り組みを行っている。

企業や施設関係者、地域住民、保護者等、高校教員、卒業生などで構成される学校関係者評価委員会で自己点検・評価を報告している。

改善案などの意見を取り入れた学校関係者評価報告書をまとめ、本校のホームページで公開している。

【課題及びその改善方策】

特になし。

【委員の方からのご意見】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
10-1-1	学校教育、学校運営について、組織的に自己点検・評価を実施しているか。	S	S
10-1-2	自己点検・評価の結果に基づき、学校教育と学校運営の質の改善と向上のための取組みを組織的に、積極的かつ継続的に行っているか。	S	S
10-1-3	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施しているか。	S	S
10-1-4	学校関係者評価結果をもとに改善の取組みを行っているか。	S	S
10-1-5	自己点検・評価及び学校関係者評価の結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。	S	S

基準11 社会貢献・地域貢献

学校関係者評価結果： 適正

公共的な機関として、資源を活用して社会的な活動や地域貢献活動を行っているか。

【取り組み状況】

学校運営に必要と判断した場合、積極的に関連団体へ加盟しており、現在は、北九州市産業経済局企業立地支援課と常に連携し、地域貢献活動における本校の役割について協議している。高校に出向いての出張授業の実施、高校生向け学内での医療事務講座を開講している。また、行政と連携した北九州高校生イラストコンテストを実施するなど社会活動、地域貢献活動を行っている。

ボランティアイベントは青少年ボランティアステーション(北九州市)から定期的に紹介いただき、全学科、担任教員を通して学生へ案内している。清掃活動、イベント補助の他、北九州市主催の北九州市民マラソン等に複数の学生たちがボランティアとして参加している。

【課題及びその改善方策】

特になし。

【委員の方からのご意見】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
11-1-1	学校の教育資源や施設を活用し、社会貢献・地域貢献を行っているか。	S	S
11-1-2	学生のボランティア活動を奨励、具体的な活動支援をしているか。	S	S

基準12 国際交流

学校関係者評価結果： 適正

留学生の受け入れ、海外への留学における学習支援や生活指導等を適切に対応し、管理体制を整備しているか。

【取り組み状況】

在籍する留学生 1名の指導について、担任教員、事務局、学校法人麻生塾国際交流センターの協力を得て、相談体制を整備している。就職指導においても、事務局と連携を取り内定に繋がっている。

渡航留学プログラムを学生に周知し、福岡キャンパスで実施される留学プログラム説明会にオンラインでも参加できるようにしている。

【課題及びその改善方策】

特になし。

【委員の方からのご意見】

・今後も力を入れて実施してほしい。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
12-1-1	留学生の受入れ、在籍管理等において適正な手続きを行っているか。	S	S
12-1-2	留学生の学修・生活指導等に対する適切な体制を整備しているか。	S	S
12-1-3	海外留学プログラムに対する支援を適切に行っているか。	S	S

以上